

コロナ前の物価指標使う 時代錯誤予算！！

★小中一貫校建設費に76億円の積算根拠は、2019年4月の物価指標を使って出した金額です。コロナ禍のなか、今後の状況次第では建築物価が大きく変動する恐れがあり、今の段階では予測困難で、さらに事業費が増大する危険性があります。（建設事業者からも物価変動が読めないと指摘されている。）

こうした状況のなか、市が選んだ事業手法は実施設計＋施工一括発注方式（基本設計先行型DB方式）

です。そして、この手法とともに物価の変動が起ころうとも事業者が損をしないように「物価スライド方式」を盛り込んでいます。

※「物価スライド方式」にする事で、建築物価が高騰しても自動的に事業費も物価に合わせて上昇し、総事業費の増大に歯止めが効かなくなる恐れがある。裏を返せば、市の負担が自動的に増える事になる。

狭い敷地に1100名超え！！国の標準規模を大きく超える

過密・過大規模の学校で教育環境悪化は避けられない！



今の計画では、長宝寺小・交野小・一中の3校統廃合によって1100名を超える児童生徒数となり、最大34学級にもなる過大規模の「義務

教育学校」となります。しかし、文科省は施設一体型小中一貫校や義務教育学校を作る時には、「標準規模は27学級以下」と定めているため、その標準から大きく外れる学校となることは明白です。

給食センターの民間委託

今回の予算では、令和4年度から調理部門を民間委託するとして10億7千万円（5年間）の債務負担が計上されています。しかし、直営で運営してきた令和2年度の決算ベースで比較すると、民間委託にする事で年間3千万円のコスト増に！！

直営の今でも、コストを抑えながら安心安全の学校給食が提供できているのに、なぜこのコロナで減収しているタイミングでコスト増になる民間委託を進めるのか？

全く道理がなく、中止するべきです。

子ども達からは少人数を望む声が



先日、長宝寺小の保護者に配布されたPTA広報誌には、長宝寺小を卒業する6年生のアンケートが載っており、「長宝寺小の好きなところは？」という質問に、第1位が「人数が

少ないところ」と半数の児童が答えています。他にも「学年交流が多く、他の学年とも仲が良い」や「運動場が使いやすい」などが挙げられており、子ども達は充実した小学校生活が保障されてきたことがよく分かります。

コロナ禍のなか、全ての子どもたちに必要な教育環境は“1100名を超え、一つの校舎で、プールもない、狭いグラウンドの過密・大規模な学校”ではなく、一人ひとりに先生の目が行き届き、十分に活動場所が確保できる学校です。

■3月議会 一般会計予算案に対する各議員の賛否

賛否の状況（○賛成 ×反対）

案件名	共産党			公明党			維新の会			市民クラブ		会派無所属			
	皿海	藤田	北尾	三浦	友井	中谷	臼口	岡田	伊崎	野口	久保田	松村	山本	松本	片岡
令和3年度交野市一般会計予算に対する修正案（日本共産党提案）	○	○	○		×	×	×	×	×	×	×		○	×	×
令和3年度交野市一般会計予算	×	×	×		○	○	○	○	○	○	○		×	○	○

※三浦議員は議長のためは採決には不参加

※松村議員は産休中